

## 資料

## 看護実習後の看護学部生の介護観

## － 在宅看護分野からの考察 －

越野美貴<sup>1,2</sup>, 多田朱里<sup>1,3</sup>, 桜井志保美<sup>1§</sup>

## 概要

A看護大学における看護実習後の看護学部生の介護観を記述したデータを分析し、在宅看護分野の立場から考察したので報告する。看護学部4年生を対象に質問紙調査を実施した。回収した調査票から自由記載を内容分析した結果、【家族介護者にとってマイナス面が大きい】【療養者・家族介護者の思いをそれぞれ両方尊重すべき】【社会資源を利用して、社会全体で療養者・家族介護者を支えるもの】等12カテゴリーが形成された。看護学部生の介護観は、【療養者・家族介護者の思いをそれぞれ、両方尊重すべき】、【社会資源を利用して、社会全体で療養者・家族介護者を支えるもの】など、療養者・家族介護者の双方に着目した内容であった。

キーワード 看護学生, 看護実習, Berelson の内容分析, 介護観

## 1. はじめに

わが国では、2025年を目途に、住まいを拠点とする医療・介護・予防そして生活支援が一体的に提供できる地域ケアシステムの構築を目指している。これは、要介護状態になっても、住み慣れた地域で、生活の質の低下を招くことなく、自分らしい暮らしができることを目指すものであり、地域ケアに関わる在宅看護への期待は大きい。

生活の質の良し悪しを決めるのは、療養者であり、望む生活は、一人一人異なる。療養者が望む生活の実現は、看護師が療養者の全体像を的確に把握することで可能になる。わが国では、在宅で生活する療養者の6割が、家族介護者によって支えられている<sup>1)</sup>。在宅看護では、療養者や家族介護者を含む家族を1つの単位として、看護の対象と捉える<sup>2,3)</sup>。そのため、療養者および家族介護者がどのような介護観を持っているかを早々に把握することが、看護計画立案時には有効である。

看護基礎教育では、臨地実習に代表されるように様々な教育場面で学生の看護観が問われる。では、介護観はどうであろうか。看護師が自己の介護観を認識することは、対象の介護観との比較を可能にし、介護にはいろいろな形があることを認める契機となる。また、看護師が介護観を自覚することは、療養者・家族介護者に対する看護師の

関心を高め、彼らの望みや価値観への理解を深めると期待される。これらのことから、看護師の介護観は、療養者・家族介護者の生活状況・家族関係などの観察、家族介護力のアセスメントに際して役立つと考えられる。以上より、学生の頃から授業・実習等を通して各々の介護観を培うことが望ましいと考えた。

そこで、看護学部生の介護観を明らかにする目的で、医学中央雑誌Web版(Ver.5)を用いて、2016年4月末までの5年間について「介護 and 意識 and 学生」をキーワードに検索した結果、抽出された原著論文は76件であった。その中で学生の介護意識に関する文献は3件であった。さらに「介護意識 and 学生」をキーワードに原著論文に限定して検索したところ、4件を抽出した。学生の介護意識と関連があるものとして、祖父母との親密性<sup>4)</sup>、介護参加経験の有無<sup>4)</sup>、世代<sup>5)</sup>、性別<sup>6)</sup>があげられていた。介護福祉士養成課程の学生を対象にした調査<sup>7)</sup>では、介護意識が介護実習の経験と関連していた。先行研究<sup>4,7)</sup>は、アンケート調査であり、看護学部生の介護観について、具体的に示した研究はなかった。そこで、A看護大学の看護学部生の看護実習後の介護観を記述したデータを分析し、在宅看護分野の立場から考察したので報告する。

本調査では介護観を、日常生活に支障がある人の介助や身の回りの世話をすることに対するイ

<sup>1</sup> 石川県立看護大学 <sup>2</sup> 金沢医科大学病院(現所属)

<sup>3</sup> 金沢大学附属病院(現所属) <sup>§</sup> 責任著者

メージ・考え方・意識<sup>8)</sup>であり、療養者や家族介護者への理解、在宅介護の援助を行う際に影響するものと定義した。

## 2. 方法

### 2.1 研究対象

対象は、A看護大学の在宅看護実習を履修した看護学部4年生(以下、学生)79名であった。

A看護大学では、1年次に基礎看護学実習Ⅰ、2年次に基礎看護学実習Ⅱ、3年次に専門分野Ⅱ臨床実習、4年次に統合分野の実習と地域看護学実習が行われる。A看護大学の在宅看護実習の概要は以下の通りである。

実習目的:1. 地域で生活している在宅療養者・要介護者・その可能性のある者と家族への理解を深める、2. 地域の保健・医療・福祉サービス機関と連携しながら、対象に応じた看護を実践するための能力と態度を養う。

実習内容:1. 訪問看護ステーション1週間、及び地域包括支援センター／居宅介護支援事業所等1週間の実習を行う。2. 訪問看護ステーションでは訪問事例を数事例経験し、そのうち1事例は継続事例とする。継続事例について看護過程を展開する。3. 地域包括支援センター／居宅介護支援事業所等では相談・調整・訪問活動等の見学を通して対象の理解を深め、対象の特性に応じた援助方法を学ぶ。4. 各施設の機能と役割を学ぶとともに、地域で生活する対象を支えるための社会資源やケアシステムについて理解する。5. 実習中のカンファレンス、実習最終日の学内報告会等を通じて学習体験を共有し、学びを深めるなど。

### 2.2 調査方法

調査は、無記名・自記式質問紙を配布して行った。質問項目は、性別、家族構成、介護経験の有無、在宅看護実習前後における介護観の変化の有無、実習後の介護観で構成した。実習後の介護観は、自由記載とした。看護師国家試験模擬試験終了後に、研究者が研究依頼内容について書面と口頭で説明し、質問紙を配布した。回収は、学生ホールに設置した回収箱に各自が投函する方法で行った。箱は、質問紙配布日より2週間設置した。調査期間は、平成28年9月16日～10月5日とした。

### 2.3 分析方法

本調査は、約70名の対象者の具体的な記述データを分析するため、データ数の多い分析に適した

Berelsonの内容分析を用いた。Berelsonの内容分析は、対象者の記述に含まれる本質を、客観的、数量的に明らかにすることができ、コンピュータを用いることで大量のデータの分析とカテゴライズを可能にする<sup>9)</sup>。看護領域では、看護教育、精神看護、在宅看護、看護管理など幅広い分野の研究で用いられている。

まず、実習後の介護観について自由記載された記述全体から、1パラグラフを文脈単位とし、文脈に記述されている1内容を1項目として含むセンテンスを記録単位とした。次に、意味内容の類似する記録単位を集め同一単位群とし、記述を忠実に反映しているかを検討したうえで、同一単位群について命名した。さらに、抽象度を高めカテゴリー化し、同様にカテゴリーネームをつけた。最後に、全記録単位数における各カテゴリーあるいは同一記録単位群に属する記録単位数の比率を、数量的に検討した。記録単位として、自由記載の記述から回答文「現在、看護学部生は、介護について・・・と考えている」に当てはまる部分を抜き出した。記録単位の作成、分類、命名は、共同研究者である学生と在宅看護分野の教員が話し合いながら行った。カテゴリーの信頼性を確認するために、在宅看護学の研究者1名に依頼し、スコットの一致率<sup>10)</sup>を算出した。本研究での一致率は79.1%であった。

### 2.4 倫理的配慮

本研究は、所属大学倫理委員会の承認を得て実施した(看大第516号)。対象者には、研究目的、方法、研究参加は自由意思によるものであり参加しないことで不利益を生じることはないなどを文書と口頭で説明し、質問紙の回収をもって同意を得たものとした。

## 3. 結果

配布した79枚のうち72枚を回収した(回収率91.1%)。

### 3.1 対象者の背景

性別は、男性が1人(1.4%)、女性が71人(98.6%)であった。祖父母と同居する者は、36人(50.0%)であった。介護経験があると答えた者は39人(54.2%)、在宅看護実習前後で介護観が変化したと答えた者は47人(65.3%)であった。

表1. 看護実習後の介護観 (n=148)

同一記録単位群	記録単位数 (%)	カテゴリー	記録単位数 (%)
1. 大変そう	14 (9.5)	1. 家族介護者にとって マイナス面が大きい	35 (23.6)
2. 負担が大きい	6 (4.1)		
3. 困難なことも多くある	5 (3.4)		
4. 自分の時間がなくなる	3 (2.0)		
5. 拘束がある	2 (1.4)		
6. 介護は簡単にできるものではない	1 (0.7)		
7. 辛いことも多い	1 (0.7)		
8. マイナス面も大きい	1 (0.7)		
9. 疲労がある	1 (0.7)		
10. 介護により家族に影響が加わる	1 (0.7)		
11. 社会資源を利用して, 社会全体で療養者・家族介護者を支えるもの	25 (16.9)	2. 社会資源を利用して, 社会全体で療養者・ 家族介護者を支えるもの	34 (23.0)
12. 必ずしも家族が介護をする必要はない	4 (2.7)		
13. 家族で介護をすることはできない	3 (2.0)		
14. 誰にも頼らずに介護を行うのは難しい	2 (1.4)		
15. プラス面もある	5 (3.4)	3. 家族介護者として プラス面もある	14 (9.5)
16. やりがいがある	5 (3.4)		
17. 介護をすることで家族も成長できる	2 (1.4)		
18. 生きがいにもなる	1 (0.7)		
19. 大変なことだけではない	1 (0.7)		
20. 家族の関係性が影響する	6 (4.1)	4. 家族の関係性が影響 する	14 (9.5)
21. 療養者・家族介護者間の愛・感謝が介護を成り立たせている	3 (2.0)		
22. 家族の存在が大きい	2 (1.4)		
23. 家族介護者が嫌々やっても続かない	2 (1.4)		
24. うまくやれば家族介護者も療養者も幸せに暮らせる	1 (0.7)		
25. 家族介護者への援助も大切	11 (7.4)		
26. 家族介護者の生活も大切	1 (0.7)	5. 家族介護者への援助も 大切	13 (8.8)
27. 療養者も, 家族介護者に負担を感じさせないことが大切	1 (0.7)		
28. 家族の介護を家族で行いたい	11 (7.4)	6. 家族の介護を家族で行 いたい	12 (8.1)
29. 介護できる環境が整っていれば, 家族の介護を家族で行いたい	1 (0.7)		
30. 療養者の思いを尊重すべき	5 (3.4)	7. 療養者・家族介護者の 思いをそれぞれ, 両方尊重すべき	11 (7.4)
31. 家族介護者・療養者の思いを互いに尊重すべき	3 (2.0)		
32. 家族介護者の思いを尊重すべき	2 (1.4)		
33. 家族介護者・療養者の思いを両方尊重すべき	1 (0.7)		
34. 介護は家族が行ったほうがいい	6 (4.1)	8. 家族の介護を家族で行 ったほうがいい	6 (4.1)
35. 介護は人それぞれやり方がある	5 (3.4)	9. 人それぞれやり方がある	5 (3.4)
36. 介護により, 療養者のQOLが変わる	2 (1.4)	10. 療養者の生活に 影響する	2 (1.4)
37. 将来は家族に負担をかけたくないので, 在宅介護は望まない	1 (0.7)	11. 将来は家族に介護を してほしくない	1 (0.7)
38. 介護に抵抗はない	1 (0.7)	12. 介護に抵抗はない	1 (0.7)

### 3.2 看護実習後の介護観 (表1)

回収した72枚の質問紙のうち、介護観について記載のない2枚を除く70枚を分析対象とした。介護観について、174記録単位の記述があった。そのうち、現状の説明や希望など、介護観の定義を逸脱すると判断したものを除外し、148記録単位を分析した。148記録単位は38の同一記録単位群に分類され、さらに12のカテゴリーが形成された。以下、カテゴリーは【 】、同一記録単位群は『 』、記述内容は「 」で示す。カテゴリーについて、記録単位数が多いものから順に結果を述べる。

【家族介護者にとってマイナス面が大きい】35記録単位(23.6%)は、「大変そう」「家族や家族介護者の中には大変に思っている人もいる」等『大変そう』14記録単位、「家族の負担も大きい」「介護は身体的負担が大きい」等『負担が大きい』6記録単位、「実際には難しいもの」等『困難なことも多くある』5記録単位等で形成された。

【社会資源を利用して、社会全体で療養者・家族介護者を支えるもの】34記録単位(23.0%)は、「社会資源を使える分は使っていけばいい」「周囲が協力していくことが必要不可欠だ」等『社会資源を利用して、社会全体で療養者・家族介護者を支えるもの』25記録単位、「家族だけに介護を強制するものではない」等『必ずしも家族が介護をする必要はない』4記録単位等で形成された。

【家族介護者にとってプラス面もある】14記録単位(9.5%)は、「家族で過ごせる利点がある」「介護をしていく生活にプラスの面もある」等『プラス面もある』5記録単位、「家族がやりがいを感じられる」「やりがいも大きい」等『やりがいがある』5記録単位、「家族が達成感を感じられる」「家族自身も成長できる」等『介護をすることで家族も成長できる』2記録単位等で形成された。

【家族の関係性が影響する】14記録単位(9.5%)は、「介護はそれまでの家族関係が大きく影響する」「介護は介護を受ける人、する人がともに信頼して安心できる存在でないと、続けることは困難だ」等『家族の関係性が影響する』6記録単位、「愛がある」「介護される人が親であれば、その人に対する感謝の気持ちを示すものの1つである」等『療養者・家族介護者間の、愛・感謝が介護を成り立たせている』3記録単位等で形成された。

【家族介護者への援助も大切】13記録単位(8.8%)は、「家族介護者自身が無理なく行えるようなサポートが大切」「介護者への労いも介護を

継続するために周囲が行うことが大切」等『家族介護者への援助も大切』11記録単位等で形成された。

【家族の介護を家族で行いたい】12記録単位(8.1%)は、「自分の家族は積極的に介護したい」等『家族の介護を家族で行いたい』11記録単位等で形成された。

【療養者・家族介護者の思いをそれぞれ、両方尊重すべき】11記録単位(7.4%)は、「療養者が望む生活に近づけられるように援助することが大切」等『療養者の思いを尊重すべき』5記録単位、「お互いの気持ちを尊重すべき」等『家族介護者・療養者の思いを互いに尊重すべき』3記録単位等で形成された。

【家族の介護を家族で行ったほうがいい】6記録単位(4.1%)は、「家族が介護を行うことができる状態にある場合は、家族が介護を行った方が本人も安心できる」等『介護は家族が行ったほうがいい』で形成された。

【人それぞれやり方がある】5記録単位(3.4%)は、「お金や時間、生活の考え方が色々ある」等『介護は人それぞれやり方がある』で形成された。

【療養者の生活に影響する】2記録単位(1.4%)は『介護により、療養者のQOLが変わる』2記録単位、【将来は家族に介護してほしいくない】1記録単位(0.7%)が『将来は家族に負担をかけたくないの、在宅介護は望まない』1記録単位、【介護に抵抗はない】1記録単位(0.7%)が『介護に抵抗はない』1記録単位で形成された。

## 4. 考察

### 4.1 対象者の特徴

本調査対象者は、祖父母と同居している者が半数を占めた。平成27年国勢調査<sup>11)</sup>によると、15-19歳、20-24歳の者における3世代世帯の割合は、1割にも満たない。先行研究<sup>4)</sup>から、祖父母との親密性が高い学生は低い学生に比べて家族介護意識や社会的介護意識が高いことが報告されている。祖父母との同居が親密性と関係するとはいえないが、本調査対象の半数が祖父母と日常的に接する機会を有しており、本調査対象集団には、介護意識の高い者が多く含まれていた可能性がある。

### 4.2 看護実習後の介護観

【家族介護者にとってマイナス面が大きい】【家族介護者にとってプラス面もある】【人それぞれ

やり方がある】の3つのカテゴリーは、介護の実際をみた学生のイメージである。【家族介護者にとってマイナス面が大きい】【家族介護者にとってプラス面もある】は、ともに家族介護者の生活に注目している。村上ら<sup>12)</sup>は、看護学生が介護について肯定的なイメージと否定的なイメージの両方を持っていたと報告している。金<sup>13)</sup>は、家族介護者の悩みの大きな原因として、調理・掃除・食事・洗濯・薬の管理・買い物をあげている。学生は、実習現場で実際の療養者と家族介護者の生活を目の当たりにする。そこで、学生は、家族介護者が、同じ介護者でも介護職と異なり、介護に加えて家事や社会生活も支えていることに気がつき、「家族の負担も大きい」「大変そう」という記述につながったと考えられる。また、学生は、療養者・家族介護者がともに楽しみながら生活する姿や家族介護者との会話から、「やりがいがある」などの在宅介護を行うプラス面に気づいたと考えられる。先行研究では、療養者の在宅生活を難しくする要因として、家族介護者の過度な介護負担など<sup>14,15)</sup>、在宅生活を継続する要因として、家族介護者の介護肯定感、介護状況への満足感、自己成長感、やりがいなど<sup>16-18)</sup>が報告されている。そのため、家族介護者の支援には、マイナス面である介護や家族役割の負担を軽減すること、プラス面である自己成長感ややりがいなどを促進することの両方の視点が必要だと考えられる。しかし、本調査結果におけるカテゴリーの記録単位の割合をみると、【家族介護者にとってマイナス面が大きい】が最も多く23.6%を占めたことに対して、【家族介護者にとってプラス面もある】は9.5%であった。これは、実際の看護展開において、学生がマイナス面である問題点や不足した部分に注目しやすいことを示していると捉えられる。現在の療養者と家族介護者の生活状況は、これまでの生活歴や人間関係から生じていることを踏まえ、教員には、学生が中立な立場でマイナス面とプラス面の両面に目を向けるように実習指導することが求められる。【人それぞれやり方がある】は、学生が、さまざまな介護が存在することを認識したことを示していると解釈できる。複数事例の訪問看護を経験する中で、学生は、各家庭における介護のマイナス面やプラス面を理解し、その価値観の違いに気づいていくと考えられる。

【療養者・家族介護者の思いをそれぞれ、両方尊重すべき】、【社会資源を利用して、社会全体で療養者・家族介護者を支えるもの】のカテゴリー

は、療養者と家族介護者の双方に着目している。訪問看護師は、療養者の表情・様子から思いを汲み取ったり、会話から療養者の思いを引き出したりとすると同時に家族介護者の介護に対する思いや、苦勞・楽しみなども訪問時に聴いている。綾部ら<sup>19)</sup>は在宅看護実習を履修した看護学生の学びとして、傾聴・共感する姿勢の必要性を認識し、時には受け止められない主張でも話を聴く訪問看護師の姿から、療養者や家族介護者に寄り添うことの大切さを感じ取っていたと述べている。このことから、療養者・家族介護者の思いを聴き尊重することで、双方が望む生活に近づける援助ができることを実感し、【療養者・家族介護者の思いをそれぞれ、両方尊重すべき】という介護観につながったと考えられる。【社会資源を利用して、社会全体で療養者・家族介護者を支えるもの】は、介護のマイナス面を解決するための援助を検討することによってでてきたと考えられる。【社会資源を利用して、社会全体で療養者・家族介護者を支えるもの】の記録単位の割合は、【家族介護者にとってマイナス面が大きい】に次いで多く、この2つのカテゴリーで全体の約半数を占めた。複数事例の訪問看護やケアマネジメントを通して、介護の実際を理解し、介護のマイナス面を解決するための援助を検討する中で、社会資源が療養者と家族介護者を支えるものという介護観につながったと推察される。

本調査では6割以上の学生が在宅看護実習の前後で介護観が変化したと回答している。しかし、実習前後で変化した介護観の内容については明らかになっていない。今後、実習によって、どのように介護観が変化したのかを明確にするためには、実習前の介護観を明らかにする必要がある。

本調査で分析対象から除外した介護観に関して記載のなかった2人についても注目したい。記載しなかった理由として、介護への関心が薄い、介護観を持っていないなどが考えられる。今後は、全ての学生が家族介護者のいる療養者への訪問看護を経験できるよう実習を調整するなど学生の家族看護に対する関心を高める工夫が求められる。

## 5. おわりに

看護学部生の看護実習後の介護観として、【家族介護者にとってマイナス面が大きい】【家族介護者にとってプラス面もある】【人それぞれやり方がある】【療養者・家族介護者の思いをそれぞれ両方尊重すべき】【社会資源を利用して、社会

全体で療養者・家族介護者を支えるもの】【療養者の生活に影響する】【家族の関係性が影響】【家族介護者への援助も大切】【家族の介護を家族で行いたい】【家族の介護を家族で行ったほうがいい】【将来は家族に介護をしてほしくない】【介護に抵抗はない】が挙げられた。

各カテゴリーの記録単位数の割合は、【家族介護者にとってマイナス面が大きい】、【社会資源を利用して、社会全体で療養者・家族介護者を支えるもの】の順で多かった。複数事例の訪問看護やケアマネジメントを通して、介護の実際を理解し、介護のマイナス面を解決するための援助を検討する中で、社会資源が療養者と家族介護者を支えるものという介護観につながったと推察された。

本調査結果は、北陸地方の看護大学の4年生のみを対象としており対象者に偏りがある点、調査結果で示した介護観に関して、先行研究による根拠が充分とはいえない点から、一般化は難しい。今後は、まず、多数の看護大学で介護観についてデータ収集と分析を行うことが望まれる。その上で、複数の看護大学の調査結果を比較検討することが必要である。

### 利益相反

なし

### 謝辞

本調査にご協力いただきました対象者の皆様、石川県立看護大学の林一美教授に感謝申し上げます。本原稿は、平成28年度卒業研究に提出した論文に加筆修正をしたものである。

### 引用文献

- 1) 厚生労働省大臣官房統計情報部：平成28年度国民生活基礎調査。  
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa16/dl/05.pdf> (accessed 2017/6/26)
- 2) 福井小紀子, 河原加代子: 第2章 在宅看護の対象者. 河原加代子著者代表: 系統看護学講座 在宅看護論. 医学書院, 25-50, 2017.
- 3) 北素子: 第5章 在宅看護における看護過程. 原礼子編: プリンシプル 在宅看護学. 医歯薬出版, 61-91, 2015.
- 4) 藤若恵美, 進藤貴子, 永田博: 孫世代の高齢者介護観と介助に対する自信-祖父父母との親密性と介護経験との関連-. 川崎医療福祉学会誌, 19(2), 351-357, 2010.

- 5) 米沢ゆん, 古城幸子: 看護学生と親の老親介護意識の比較. インターナショナル Nursing Care Research, 10(2), 85-92, 2015.
- 6) 粥川早苗: 高齢社会と親の介護に対する意識について: 看護職および看護学生と大学生の意識調査を通して. 介護福祉学, 8(1), 50-57, 2001.
- 7) 後藤満枝, 内野秀哲: 実習経験が学生の排他介護意識に与える影響. 仙台大学紀要, 46(2), 47-59, 2015.
- 8) 石田京子, 小田史, 田中真佐恵, 他3名: 短期大学における介護学生の卒業時の介護観の検討-授業・実習との関連と新カリキュラムへの課題-. 大阪健康福祉短期大学紀要, 10, 3-14, 2011.
- 9) 上野栄一: 内容分析とは何か-内容分析の歴史と方法について-. 福井大学医学部研究雑誌, 9(1.2), 1-18, 2008.
- 10) 舟島なおみ: 質的研究への挑戦 第2版. 医学書院, 46-47, 2007.
- 11) 総務省統計局: 平成27年国勢調査人口基本集計.  
<http://www.stat.go.jp/data/nihon/02.htm> (accessed 2018/1/30)
- 12) 村上実央, 長山萌, 高橋真秀, 他5名: 看護学生の介護意識の特徴 一般学生との比較. 北海道公衆衛生学雑誌, 30(2), 113-122, 2017.
- 13) 金東善: 在宅要介護高齢者の家族介護者における介護負担感とその関連要因-日本と韓国の比較を通じて-. 厚生指針, 58(11), 14-20, 2011.
- 14) 栗林佑希子, 山田和子, 森岡郁晴: 在宅介護者の介護負担における性別毎の関連要因. 日本医学看護学教育学会誌, 25(2), 28-39, 2016.
- 15) 原沢優子, 長谷部佳子, 岡本和士: 介護家族の老親扶養義務感が介護継続意欲に及ぼす影響. 日本保健医療行動科学学会年報, 21, 177-188, 2006.
- 16) 長澤久美子, 飯田澄美子: 男性介護者の介護継続要因. 家族看護学研究, 14(1), 58-67, 2008.
- 17) 高橋甲枝, 井上範子, 児玉有子: 高齢者夫婦二人暮らしの介護継続の意思を支える要素と妨げる要素 介護する配偶者の内的心情を中心に. 日本科学学会誌, 26(3), 58-66, 2006.
- 18) 坪井章雄, 松田俊, 佐々木実, 他4名: 介護者の主観的介護負担に影響を及ぼす介護保険サービスの検討. 総合リハビリテーション, 30(12), 1413-1420, 2002.
- 19) 綾部明江, 鶴見三代子, 長澤ゆか: 臨床実習後に在宅看護実習を履修した看護学生の学び-実習後の「看護観の再考」に焦点をあてて-. 茨城県立医療大学紀要, 20, 103-112, 2015.

## **Nursing Students' Post-practicum Views on Caregiving: Considerations from the Field of Homecare Nursing.**

Miki KOSHINO, Akari TADA and Shihomi SAKURAI

### **Abstract**

We analyzed data describing the post-practicum views of nursing students on caregiving from the standpoint of homecare nursing. A paper-based questionnaire survey was conducted with 4<sup>th</sup>-year nursing students, and the content of description data from the survey was analyzed. The analysis resulted in 12 categories including: "Major disadvantages to family caregivers," "The wishes of both patients and family caregivers should be respected," and "Social resources are used to support patients and family caregivers." The views of the nursing students comprised content that focused on both patients and family caregivers, such as: "The wishes of both patients and family caregivers should be respected," and "Social resources are used to support patients and family caregivers throughout society."

**Keywords** nursing students, nursing practicum, Berelson's content analysis, views on caregiving